

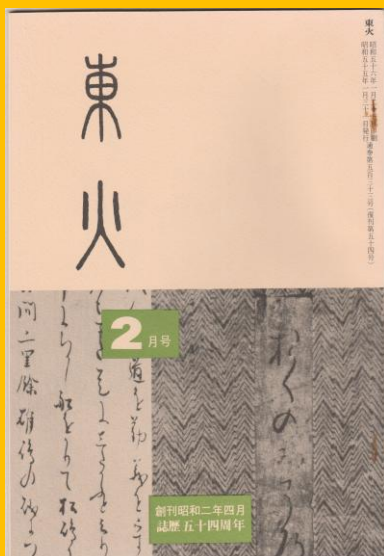
令和8年

令和9年

9月5日～2月28日



南画家小室翠雲の描いた「たんぼ」が表紙となった『かはがらし』創刊号。(昭和2年4月1日発行)



『東火』第533号(昭和56年1月31日発行)。この号が最終号となった。(是山、94歳)

後藤是山生誕140年・没後40年記念企画展

俳誌『かはがらし』と

『東火』で迎える是山

〈企画展解説講話のご案内〉

第1回：令和8年10月31日(土)午後1時30分～3時

内容・『かはがらし』で迎える是山（戦前編）

第2回：令和8年11月28日(土)午後1時30分～3時

内容・『東火』で迎える是山（戦後編）

解説者：後藤是山記念館長 植木英貴

場 所：後藤是山記念館展示室

※当日は駐車場がないため公共交通機関をご利用ください。

会場 後藤是山記念館

熊本市中央区水前寺2丁目6-10

開館日時：9:30～16:30

休館日：月曜日（祝日の場合は翌日）

年末年始（12/29～11/3）

入館料：大人200円 こども100円

（市内65歳の方及び市内小中学生は無料）

俳誌『かはがらし』と
『東火』で辿る是山

後藤是山の活動の大きな柱の一つは俳人としての活動です。

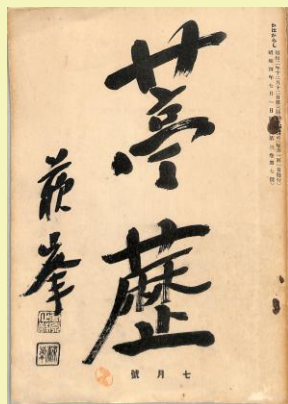
もともとは山は短歌から始め、大正十年（一九二一年）に与謝野寛、晶子の『明星』の同人となります。それと並行し俳句活動も活発に行い、昭和二年（一九二七年）四月、是山が四十歳の時、俳人末次青雉（すえつぐせいち）らと共に俳誌『かはがらし』を創刊します。そして昭和十九年に『東火』と改称し、九十四歳になる昭和五十六年（一九八一年）一月まで、五十四年間にわたって発行し続けました。

令和八年（二〇二六年）は是山の生誕一四〇年、没後四〇年の年です。そこで俳誌『かはがらし』と『東火』では是山の半生をたどります。



昭和41年5月5日の草枕『峠の茶屋跡』記念碑除幕式

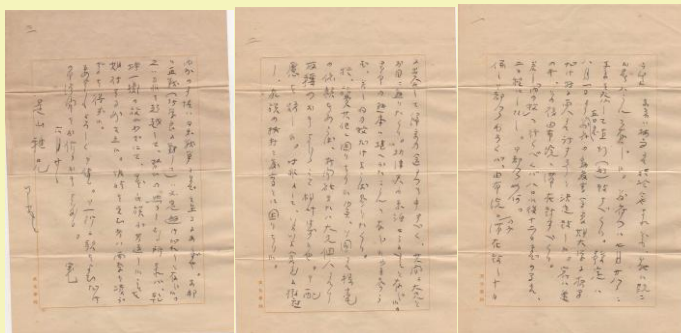
夏目漱石生誕100年となる昭和41年、是山は東火句友、地元の河内芳野村野出（当時。現在の熊本市西区河内町野出）の有志などの協力を得て、草枕『峠の茶屋跡』記念碑の建立を行いました。



『かはがらし』
昭和4年7月号
是山の良き理解者であった徳富蘇峰。この号から蘇峰の揮毫した「草枕」が昭和13年まで表紙に使われました。



与謝野寛、晶子夫妻らとともに（久住登山口にて）
夫妻は昭和6年に続き昭和7年にも久住を訪問しました。左からは山、晶子、寛（後ろ）、中央は是山の父、萬太郎。右から2人目がのちに久住町長となる工藤元平（号：久泉）。



与謝野寛からは是山へ送られた大分出張を知らせる書簡（昭和7年6月20日付）この書簡には、寛が「旅費其の他に困りおり候ゆえ、御国にて揮毫依頼者があらば、御取纏めおき下され候」などとあり、寛とは是山の親しさが窺えます。

《後藤是山生誕140年・没後40年記念企画展》
俳誌『かはがらし』と『東火』で辿る是山
令和8年9月5日～令和9年2月28日

後藤是山記念館

熊本市中央区水前寺2丁目6-10
TEL096-382-4061



Google Map

